

水辺劇場都市にいがたフォーラム Part 2

信濃川を活かした環境まちづくり

報 告 書



平成 26 年 11 月

NPO法人 地域インフラ研究会

1. 行事等の名称

水辺劇場都市にいがたフォーラム Part 2 信濃川を活かした環境まちづくり

2. 行事等の期間及び場所

平成 26 年 11 月 1 日、NST ゆめディア 301～303

3. 参加者数

49 名

4. その他行事等の結果

(1) 挨拶



NPO 法人地域インフラ研究会の高橋理事長から、開催の挨拶とともに

- ・水辺劇場都市構想の説明とフォーラムの流れ
- ・水辺劇場都市構想に関わる主な取り組み

について説明が行われた。

(2) 報告

1) 体感温度測定



新潟工科大学の富永教授から「信濃川付近で人が感じる暑さは？」と題して、平成 26 年 7 月 30 日に実施した「体感温度測定」の結果について報告された。

測定結果の主な点は以下の通りである。

- ・ 正午付近の体感温度は全体的に高い
- ・ 午後からは、左岸側が建物の日影になる影響で右岸側と体感温度に差が生じる
- ・ 夕方は、安定した海からの風が信濃川沿いに吹き、日射も弱まるため、両岸で体感温度が下がる

2) 信濃川を活用したまちづくり活動



「萬代橋サンセットカフェ」と「まちなかアウトドア」の紹介の様子

「萬代橋サンセットカフェ」の様子は鈴木寿行さんから、「まちなかアウトドア」の様子は肥田野正明さんから、それぞれの取り組み状況をまとめたビデオを中心に説明された。

3) パネルディスカッション



パネリスト

新潟オープンカフェ推進実行委員会 代表 鈴木寿行

志民委員会 事務局長 肥田野正明

新潟交通株式会社 事業部長 竹内正喜

NPO 法人地域インフラ研究会 理事長 高橋邦夫

コーディネーター

フリーアナウンサー 菊野麻子



4人のパネリスト



コーディネーターの菊野麻子さん



高橋邦夫さん



竹内正喜さん



肥田野正明さん



鈴木寿行さん

- ・パネルディスカッションに先立ち、NPO法人地域インフラ研究会高橋理事長から、体感温度測定、やすらぎ堤歩行者・自転車通行量調査および利用者アンケート調査の結果の報告（現状とニーズ等の抽出）とともに、問題提起がされた。
- ・問題提起の内容は「信濃川（やすらぎ堤）は、もっと、まちと関わりを持たなくて良いのか？ ⇔ まちは、もっと信濃川を利用しなくて良いのか？」であった。
- ・パネルディスカッションのまとめでは、コーディネーターから「信濃川を活用するには難しい点もあると思われるが、立ち上がって動き出すことによって色々なところに波及していくと思われる。固定観念でこうあるべき、これは無理だなど、自分たちで規制を作ってしまうのではなく、色々な可能性を秘めた水辺空間を、より広く活用することができるような可能性を感じる事ができた。」と整理された。
- ・パネルディスカッションでの主な論点は以下の通りである。

- ・水辺を実際に活用している取り組みを通じて、まだまだ活用の余地があるのでは？
- ・非日常ではなく、日常での取り組みが大切（継続した取り組み、職としての確立）
- ・商業地の活性化という観点からの水辺空間の活用や回遊性確保の可能性
- ・冬の新潟における利用方法
- ・オール新潟による取り組み（河川と港湾を連携したコミュニケーション作り）
- ・新潟のPR方法
- ・夢
- ・点を線にする取り組み、エリアマネジメント
- ・イベントして人を集めるだけでなく、色々な点を意識した取り組みの大切さ
- ・信濃川周辺の活用法、商品価値、心の中にある風景

以上